

森のひろば

謹賀新年

フォレスト・ニュース

NO.1043

25年1月



近畿中国森林管理局

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>
大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763



蛇谷国有林と白山（石川県）



年頭のご挨拶

近畿中国森林管理局長
前川 泰一郎

平成25年の輝かしい新春を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

皆様には、ますます御健勝で新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、依然として長引くデフレ不況により新設住宅着工戸数の落ち込みや木材需要の不振など木材価格は下落の一途をたどり、林業・木材業界の採算性が一層低下するなど極めて厳しい状況となりました。

こうした中、森林は木材生産機能とともに、水源かん養や国土の保全、地球温暖化防止、生物多様性の保全などの公益的・多面的機能を有しています。特に戦後造成された人工林の活用は喫緊の課題となっています。このため、間伐をはじめとする適切な森林管理を行い、災害に強く安全で安心できる森林の造成や、地球温暖化防止にも貢献する健全な森林づくりを行い、生物多様性に富む多様な森林づくりを行っていく必要があります。また、間伐材を含めた木材や木質バイオマスの供給源として、国産材の利用拡大を図って行くことも不可欠です。

近畿中国森林管理局としても、森林・林業再生に向けて、

民有林と国有林との連携による森林共同施業団地の設定や路網整備・搬出間伐の推進と高性能林業機械の組み合わせによる低コスト作業システムの普及・定着や准フォレスター等の人材育成など、府県・市町村と一体となって国有林の組織・技術力・資源を有効活用し、地域における森林・林業の再生に向け様々な課題に取り組みました。

また、昨年6月21日衆議院本会議で、「国有林野事業の一般会計化への移行に係る法律案」が可決され、国有林野事業の特別会計で企業的に運営してきた国有林野事業については、本年4月から一般会計において実施することとなりました。これにより、国有林の有する公益的機能を十分発揮させるため、国有林及び民有林の一体的な森林整備及び保全を推進することが一層求められています。

このことを受け本年は、公益重視の管理経営の一層の推進及び森林・林業再生への貢献を図るため、①地域関係者や民有林との連携を深めた管理経営の推進②国有林及び民有林の一体的な整備及び保全③安心・安全な国土の基盤づくり④低コスト化を実現する施業モデルの展開と普及⑤森林・林業技術者の育成⑥施業の集約化⑦国産材の新規需要開拓と安定供給体制の構築等に取り組んで参りたいと考えています。

民有林関係の皆様方との一層の連携を図りつつ、森林・林業の再生、地域社会の活性化に向け引き続き努力して参る所在でありますので、皆様方により一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様方の本年のご多幸とご健勝を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

トピックス

グループ対抗里山デジカメ選手権

～入選作品～

【計画部 箕面森林環境保全ふれあいセンター】

10月28日(日)に京都市内の梅小路公園「緑の館」において、「平成24年度グループ対抗里山デジカメ選手権」の最終審査会及び表彰式を公開で開催しました。

この選手権は、里山に暮らす動植物や森林づくり活動、森林環境教育活動などの撮影を通じて、里山の現状や役割を多くの人に伝えることを目的とし、今回で6回目となります。

今年は、「身近な森林(もり)の再発見!!」をテーマに写真3枚1組を1作品として募集したところ、学校、森林・林業活動グループ、企業・家庭など全国から65グループの応募があり、この中から一次審査を通過した30グループが最終審査に進みました。

最終審査では、各グループの代表が日頃の活動や作品の説明、里山への思いをスピーチし、単に映像の美しさにとどまらず、作品に込められたメッセージも審査し、写真家の今森光彦氏、農学博士の只木良也氏、フリーアナウンサーの青山佳世氏の3氏と前川近畿中国森林管理局長も審査に加わり、最優秀賞(林野庁長官賞)1点、里山賞1点、優秀賞(近畿中国森林管理局長賞)7点、審査員特別賞1点を設け計10点の入選作品を決定しました。

最優秀賞(林野庁長官賞)

森林・林業
活動部門

「森とあそび」
トヨタの森 A (愛知県豊田市)
大原 満枝 原田 秋男 原田 敬子

11月中旬、アバマキの葉が黄色く色づきます。アバマキはトヨタの森を代表する樹種。トゲトゲの大きなパンツ(殻斗)のドングリのなる木です。森に遊びに来る子供たちもリスやネズミなどの動物たちもドングリが落ちるのを楽しみに待っています。大きなノッポのアバマキの木の根元に寝転んで、落ち葉でふかふかの地面を背中を感じながら目を閉じると鳥たちの声、風の音…森のおしゃべりが聞こえてきます。

テレビの番組で見たチーズころがしをまねて、アバマキの幹の輪切りをチーズに見立て、「森のゴロゴロチーズころがし」をしました。丘の上から転がしてゴロゴロゴロゴロどこまで転がっていくのかを競います。秋の森での親子参加のイベントプログラムは大人も子どもも大喜び! 森に歓声が響きました。

森の斜面でソリ遊びをしました。大きな木のソリに乗った子どもたちの嬉しそうな笑顔。スピードがでてスリル満点だけれど、楽しくて何度でも挑戦したくなってしまいます。一番うしろに乗っている白い髭のおじさんが、このソリの製作者。ソリは、すべりながらカートをチョンとつけると速さや向きが変わって面白い! そんな体中で感じる楽しさを子どもたちに体験させてあげたいと言いつつ…いちばん楽しんでいるのは大人のような気がします。

ライフスタイルが変わって、自然とのかかわり方がずいぶん変わってきましたが、まずは、森に来て楽しく過ごすこと。楽しい遊びの中からさまざまな発見があります。





里山賞

「明るい森に」
 京都府立北桑田高等学校C班(京都府京都市)
 岩崎 夢乃 中井 悠 藤原 菜世

北桑田高校の森林リサーチ科が実習しているところ
 です。

手入れの行き届かない暗い森では木の根元に草たちが
 育たず、土が豊かになりません。草がないと雨が降った
 とき土が流されてしまいます。私たちは、木が入り組み
 すぎて暗くなってしまった森を、明るく健康な森にする
 ために間伐していきます。

スギの香りで満たされた森の中の作業。間伐した木の
 枝を切り落として、木材の長さを4メートルにそろえ
 ています。これを、林業用の機械が通れる道まで、みん
 なで運びます。倒したばかりの木は思ったよりも重い
 のです。足元にも気を付けながら、ちょっとよろける時
 もありますが、木を置くまで責任をもって運びます。

帰り際にいったん振り返って、明るくなった森を見わ
 たすときがその日の授業の仕上げです。そのひとつと
 つが地道な作業ですが、その日の作業が間違いなく少し
 でも森を明るくした、そう実感できる瞬間を写真におさ
 めてみました。



審査員特別賞

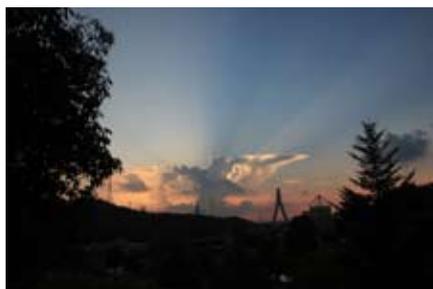
「大原にふりそそぐ光」
 京都大原学院 大原っ子！(京都府京都市)
 伊東 里紗 後藤 未沙





優秀賞 (近畿中国森林管理局長賞)

「森は眠らない」 トヨタの森 B (愛知県豊田市)



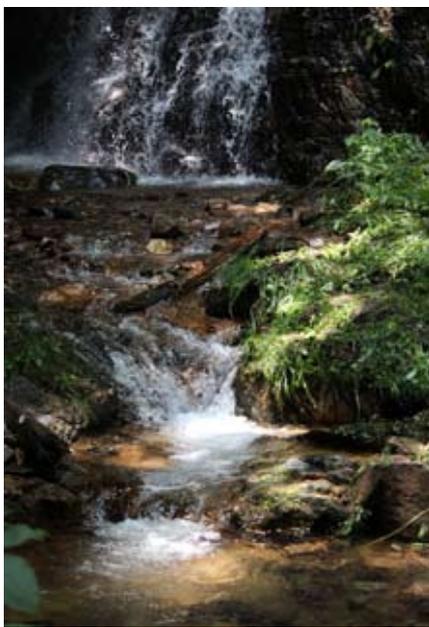
「ちびっ子探検隊の大発見」 NPO 法人 やまぼうし自然学校 (長野県上田市)



優秀賞 (近畿中国森林管理局長賞)



「木漏れ日」 広島県立庄原格致高等学校 F チーム (広島県庄原市)





優秀賞 (近畿中国森林管理局長賞)

「偶然の出会い」 箕面大好き親子 (大阪府箕面市)



「秋の里山」 特許調査部 (東京都大田区)



ミッション! SATOYAMA「里山ってわかるかなあ」写ベスト1 (大阪府高槻市)



グループ対抗デジカメ選手権 表彰式 (総評)

今森 光彦 氏

私は初回から楽しく審査させていただいていますが、最初は国有林、森林が国民にひらかれたものにしたいということで、コンテストを始めました。

森だけでなく森を創っている周辺の環境も入れたらということで、田んぼなど全体を里山ということでコンテストの対象になっていると思います。

毎年言っていますが、3点作品を自分で厳選して、さらにコメントを付け加えて発表しないといけないという、こんな難しい審査はなかなか日本のコンテストでもないですね。

だいたい写真を1点応募するとか、組写真で10点以上というものは多いが3点は難しい。よほど自分の撮りたいものがはっきりしないと、私たちに伝わってこないです。

起承転結がなく、3枚で全部を伝えないといけないわけですから。

特に、森林活動部門が難しいですね。活動されている内容を伝えないといけないわけですから難しい。そのときにコメントの力は大きいんですね。そういうものを上手く使って写真の悪いところを補うということを考えていただいたらいいと思います。

いちばん理想なのは写真もいいし活動内容もいいというのが理想ですが、だいたい傾向として2つに分かれる気がします。活動されている方は活動は素晴らしいですが、写真は下手です。写真がよければ自分がやっている活動や自然の思いの表現が下手です。写真の説明は上手いんですね。ところが背後にあるものの説明がちょっと足りない気がします。そのバランスが難しいんですね。それが、両方あるのが理想です。今日受賞された方は全体のバランスが取れているんですね。個性的な方々が審査されるわけですから、うまくいきません。必ずしも写真が良くて落ちたりしますし、活動内容が良くて落ちますし、このコンテストのおもしろいところは、そこだという気がします。だから続けていただきたいコンテストだと思います。

全体の傾向としては、見せ方がパターン化してきたのが心配です。ですから、もっとオリジナリティや視野を広げて、審査員の方々がおっしゃったことを参考にして頂いて、もっと自分のやっていることを理解して掘り下げて、文章コメントと写真の表現力で頑張ってくださいと思います。今日はありがとうございました。

地域ニュース

第41回翔龍祭・第29回こだま祭

～「地域との交流」地元イベントに参加～

【和歌山森林管理署】 11月24日（土）・25日（日）に田辺市龍神村において「第41回の翔龍祭」が開催され、当署から丸太切りや木製アクセサリ作りなどの体験コーナーの出店と、パネル展示による国有林のPRを行いました。

両日とも天気が良く、多くの親子連れで賑わいました。子供たちは小枝やドングリ、松ぼっくりを使って思い思いのアクセサリ

りに挑戦し、悪戦苦闘の末やっと完成「できたー!」。帰りには子供が笑顔で「ありがとうー!」。この一言で職員の疲れもなくなります。あっという間



龍神村翔龍祭「できたー!」

に時間も経過し、楽しいイベント参加となりました。

また、12月9日（日）には「第29回こだま祭」が田辺市本宮町で開催され、時折小雪が舞う寒い一日でしたが、こちらも大勢の来場者で賑わいました。販売コーナーでは90本用意した紀州産シイタケ原木はあっという間に売り切れ、職員手作りによる「ドングリの笛」や木製アクセサリ作りコーナーは子供たちに大好評でした。

今後も、地域との交流を深め、国有林のPRに努めて参ります。



本宮町こだま祭

「京都の森を守ろう 薪割り大作戦&ウォーク」を開催

【京都大阪森林管理事務所】 12月8日（土）に、高台寺山国有林において、「京都の森を守ろう 薪割り大作戦&ウォーク」を京都大阪森林管理事務所、京都伝統文化の森推進協議会、朝日新聞社などの共催により開催しました。

このイベントは、近年ナラ枯れにより景観が変化しつつある京都の森の被害状況を多くの人たちに見てもらい、京都の森の未来を考えるきっかけになればと企画されたものです。

当日、ウォーク参加者約180名は、早朝から青蓮院門跡「あおくすの庭」に集合です。



ウォーク参加者

青蓮院門跡を拝観後、初冬の高台山寺国有林を森林インストラクター（京都会）の解説案内で9班に分かれ散策し、東山山頂公園を目指しました。

東山山頂公園では、昼食に地元の協力で豚汁がふるまわれ美味しく頂きました。今回が第3回目となる「薪割り大作戦」は、ウォーク参加者と一般参加者など総勢240名が薪割り体験をしました。薪割りは、手斧と薪割り機械の2種類で行いました。



機械で薪割り



手斧で薪割り

薪割りをすることにより、ナラなどの樹木に入った虫（カシノナガキクイムシ）の状態が一目で分かるとともに、この虫を早期に伐倒駆除することができます。伐倒駆除により、京都の景観が守られる事や、木材資源の有効活用に繋がる事について理解して頂きました。参加された方々からは、「手斧は重たく、狙った所に当たらない。難しい。」（子供）、「外国製の手斧と日本製の手斧では、外国製の手斧の方が重くよく割れた」（大人）、などの声が聞かれました。割った薪は、一般家庭に使用条件付きで販売もされました。

当日はスタッフとして、当所より所長ほか3名が参加しました。

※ 薪販売の条件

・カシノナガキクイムシが飛散する前に使い切る。・京都市に居住していること。（カシナガを他の地域に飛散させないため）

「遊々の森・GO (ゴー) 郷 (ゴー) ふれあいの森」にて出前森林教室

【鳥取森林管理署】 12月5日(水)、「遊々の森」協定を結んでいる鳥取市立中ノ郷(なかのこう)小学校より、1学年57名と教職員3名を対象に、登山を兼ねた森林教室の依頼があり、鳥取森林管理署職員4名により出前森林教室を行いました。

当日はあいにくの荒れ模様となったため、小学校内での森林教室となりました。

最初に鳥取森林官の挨拶の後、アイスブレイク、ネイチャーゲーム、業務課長のユーモアあふれる「自然界〇クイズ」、「ミニクラフト教室」、最後に職員手造りの紙芝居「1粒のどんぐり」の読み語りを

を行い森林教室を終了しました。



クラフト作り



「1粒のどんぐり」紙芝居

後日、「森林かんりしょちょうさんへ」と1学年児童1人1人の心のこもったお礼の絵と感想文が届きました。



参加した1学年児童の松本悟志君は、「管理署の仕事や、自然の事がたくさんわかった」、清水由良さんは、「紙芝居が面白かった。どんぐりが成長して命はこうやって続いて行くんだなあ思いました。」と感想を述べていました。

檜皮採取技術査定会

【山口森林管理事務所】 12月3日(月)、4日(火)に山口森林管理事務所管内の城山国有林において、^{ひわた}檜皮採取技術査定会が行われました。

檜皮採取技術査定会とは、檜皮採取技術の継承と向上を目的に、檜皮を剥ぐことのできる技術者(以下^{もとかわし}原皮師)の技術を査定員により審査する会です。

城山国有林では、平成14年度より(社)全国社寺等屋根工事技術保存会と協定を結び檜皮の採取・販売を行っていましたが、檜皮の採取開始から10年目の今年、近畿中国森林管理局管内では初めての査定会が行われました。

当日は、原皮師1人につき3本のヒノキ立木が選木され、開始の合図とともに19名の原皮師が一齐に作業に取り掛かりました。査定員の厳しい視線の中、日頃の成果を発揮しよう



檜皮採取

と黙々と作業を行う様子は迫力のあるものでした。

2日目には、採取した檜皮を結束する作業が行われ、1人1人の檜皮採取量が目に見える形となりました。



檜皮の結束

自分の体一つで技術を習得し、その技術を査定員が指導者から初級者までのランク付けするという厳しい職人の世界が垣間見えました。

時折、雪がちらつく寒い中でしたが2日に亘る作業は無事に終了し、12月10日から本格的な檜皮の採取作業が始まります。



参加の原皮師さん達

ニッセイ加茂川の森育樹活動

【岡山森林管理署】 12月8日（土）に岡山県吉備中央町の加茂山国有林において「ニッセイ加茂川の森 育樹活動」として枝打ち体験を実施しました。日本生命岡山支社や岡山県内の営業部の方など子供も合わせて約50名の方が参加しました。署からは、枝打ち体験での注意事項及び枝打ちの際の指導として3名が参加しました。

当日の天候はなんと雪。足場が悪くなったり、急遽中止にならないか心配されましたが、雪も本降りにならずに無事実施することが出来ました。ちらつく雪の中

で、「枝打ちとは何か？」や「枝打ちとは何のためにするのか？」などを説明しました。枝打ちという作業の必要性を分かっていたところ



参加者集合

で、枝打ちのデモンストレーションを実施しました。「枝はなるべく幹に接して切るように」や「細い枝もきちんと切る」「幹を傷つけないようにする」など実演を交えつつ、行ってはいけないことや注意することなどを説明しました。参加者は寒い中、職員の実演の様子を食い入るように見つめていました。

その後は、さっそく枝打ち作業へ。作業エリアに入る前に今一度注意して作業を開始しました。職員は作業箇所を回り、ノコギリに慣れていない方には使い方などアドバイスし、また「斜面が急なので気をつけてください」や「とげのある木（ジャケツイバラ）があるので気をつけてください」など注意を呼びかけました。皆さんいい返事で対応頂き、そこから皆さんとコミュニケーションが取れ和気藹々としたムードで枝打ち作業が出来ました。参加者の中には、ノコギリを上手に使う方もいて驚きました。枝打ちを黙々とやっている参加者のお子さんに「枝打ち、楽しい？」と聞いたら「うん！」とこやかに返事をしてくれました。枝打ちを体験した方々からも「林内がすっきりしていい」「清々しい気分」など



枝打ち作業

山に触れることが出来て嬉し

いと感想を多く頂きました。参加者皆さんの活動により節のない良材が生産されると思います。短い時間でしたが、とても充実感のある時間になったのではないかと思います。



最後は和やかな雰囲気の中で記念写真を撮りイベントを終えることが出来ました。

お知らせ

NEW！ 展示ボックス

もり森林のギャラリーは、「農林水産業の情報発信基地」として木材利用の拡大や中山間地域等の振興に関する情報発信を行っております。

この度、従来の展示等に加え、「展示ボックス（450×520mmの大きさのボックスが24個ある常設展示ボックス）」を利用した常設展示に取組むことにしました。



（展示ボックスには京都府京都市（京北）産のスギ材が使われています。）

展示希望の団体の方は、下記までお問い合わせください。

計画部 指導普及課 企画係

TEL:050-3160-6751 FAX:06-6881-3564

HP: <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>

もり森林のギャラリー（局庁舎1階）

12月17日～1月31日 まで

レクリエーションの森スキー場紹介

【近畿中国森林管理局 国有林野管理課】

1月7日～1月18日 まで

森のパーティ 【スモールアート協会】